

令和8年度 第1回 都心まちづくり推進委員会

日時：令和8年（2026年）6月26日 14：00～15：30

会場：赤れんが庁舎地下1階 道民ベース

札幌市 都心まちづくり推進室

次第

- 1 開会
- 2 各委員からの自己紹介
- 3 資料説明（事務局より）
- 4 各委員から
- 5 閉会

【配布資料】

資料1：座席表

資料2：委員会設置要綱

資料3：委員名簿

資料4：説明資料（本資料）

資料5：中期アクションプログラム
第1期（2026-2031）ver.1（素案）

委員名簿

(敬称略・50音順)

区分／専門		氏名	所属等
学識	交通	高野 伸栄	(一社)地域社会資本マネジメント研究所 理事長 / 北海道大学 名誉教授
	都市計画 脱炭素 都市づくり	村木 美貴	千葉大学大学院 工学研究院 地球環境科学専攻 教授
民間都市開発		東 幸治	三井不動産株式会社 北海道支店 支店長
民間都市開発		井上 俊幸	三菱地所株式会社 執行役常務
エリア マネジメント		内川 亜紀	札幌駅前通まちづくり株式会社 代表取締役社長
都市再生 都市開発		興村 英樹	独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 北海道まち づくり支援事務所 所長
エネルギー事業		奥山 善樹	北海道電力株式会社 執行役員 バリューマーケティング 部長

区分／専門	氏名	所属等
エネルギー事業 エリア マネジメント	金田 幸一郎	北海道ガス株式会社 執行役員 第一営業部長 / サツエキース トまちづくり協議会 事務局
金融・経済	酒井 武知	日本政策投資銀行 北海道支店 次長
エリア マネジメント	東出 正和	創成イーストリンク 会長 / サッ ポロ不動産開発株式会社 SF事 業部長
商業・経済	藤井 将博	札幌商工会議所 住宅・不動産部 会部会長 / 株式会社藤井ビル 代表取締役
オブザーバー	犬飼 武	国土交通省 都市局 市街地整備課 拠点整備事業推進官
	今 佐和子	国土交通省都市局まちづくり推進 課官民連携推進室 併任 都市環 境課 企画専門官
	神田 太郎	北海道開発局 札幌開発建設部 都市圏道路担当次長

この推進委員会の位置づけ

定例で実施するもの(少なくとも年1回)

- ❖ 取組状況の共有(市、エリアマネジメント団体、企業等)
- ❖ モニタリング指標のデータと分析の提示



- 計画の進捗管理と課題の整理
- 必要な取組(公民で今後何を実施すべきか)

※検討を深掘りする必要があるプロジェクトは部会を設置

「中期アクションプログラム」の検討 (改定時期に応じて開催)

- ❖ 定例会や部会で意見交換した取組等を基に、短中期的に実施する具体の取組・施策の取りまとめ

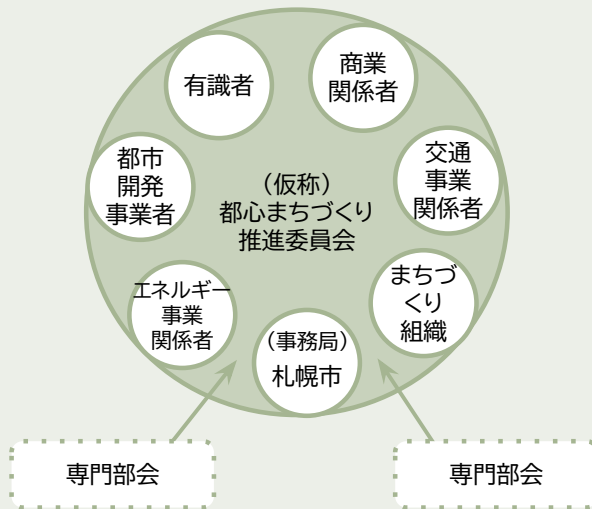


- 公民で取り組むロードマップの整理
- 取組・施策を評価する指標の設定

(第3次都心まちづくり計画抜粋)

(仮称)都心まちづくり推進委員会

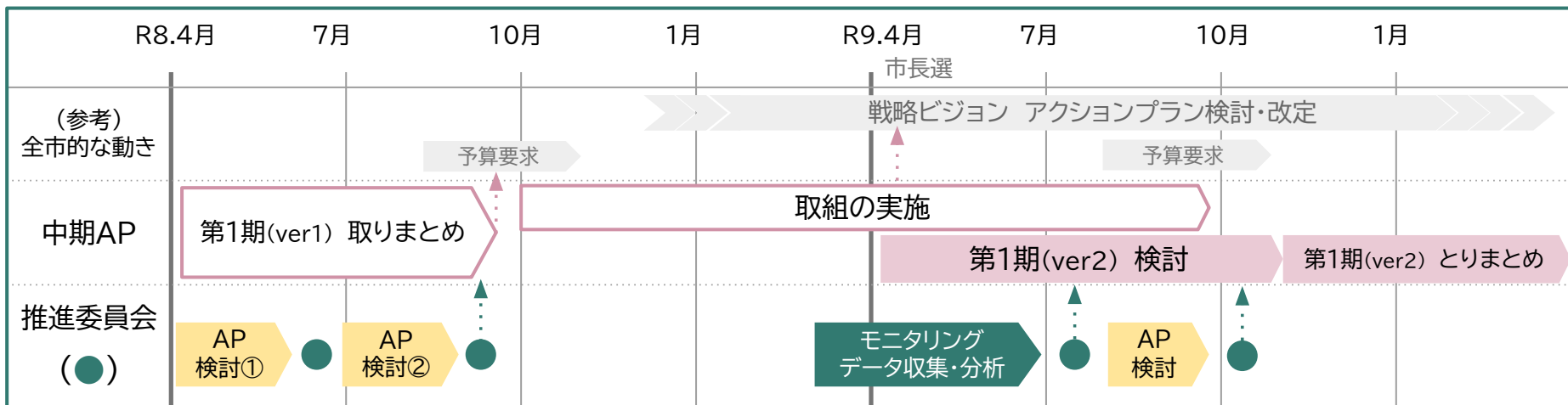
計画推進状況の評価、課題の共有、
計画の見直し、追加施策の検討など



※専門部会のイメージ

個別具体の制度設計や手法の検討、プロジェクトの創出にあたって適宜、部会を設けて検討を深める必要に応じ、委員会メンバー外の参加も検討

今後のスケジュール



(R8年度)

- AP検討①: 主に行政が実施する・推進したい取組を提示→意見交換
- AP検討②: ①に加え、民間の皆さまの取組やアイデアをプラス→意見交換
- 目標: 中期AP第1期(ver.1)作成

(R9年度)

- 前期: 各主体の取組状況、モニタリング指標の分析結果の共有
- 後期: 上位計画の施策の方向を受けた中期AP第1期への反映
- 目標: 中期AP第1期(ver.2)作成

ここで、

【資料5】 中期アクションプログラム
第1期（2026-2031） ver.1（素案）

の説明をさせていただきます

計画策定時の検討会でいただいたご意見

ご意見	回答
各部局等の取組が、最終的な目標や理念に繋がっていることの確認・評価を推進委員会でできるとよいのではないか。	最終的な目標や理念に、具体的な取組がどう連動しているかをロジックモデルで整理しました。
アクションプログラムと推進委員会は非常に重要であり、アクションプログラムの策定にあたっては、ぜひ担い手を巻き込んで進めてほしい。	アクションプログラムでは、行政側の取組だけではなく、民間側の取組も併せて検討し、多様な主体とともに取組を実行していきたいと考えております。
チ・カ・ホなどの先進的な取り組みをより広いエリアに適用するといった、具体的なインセンティブの設け方について、アクションプログラムの議論の中で検討できるとよい。	アクションプログラムでは「目玉となる取組」を定め、「開発誘導」を重要なテーマの一つとして位置づけております。各目標において今後「誘導」により実現したいことを、それぞれの関係性を整理・連動させながら、効果的な誘導手法のあり方について検討を進めてまいります。
出てきた取組のそれぞれがどういった関係になっているかを整理し、組み合わせることにより成果が上がりそうなものなどを整理してもよいのではないか。	ご指摘の通り、各取組の相互関係を整理し、相乗効果の高い組み合わせで進めることが重要であると考えております。「目玉となる取組」では、それらを意識して計画を作成しております。あわせて、モニタリング指標の分析においても、関連する複数の指標を組み合わせで多角的に効果を検証する予定です。
多様な担い手の需要を把握して事業の種を多く作っていくべきであり、そうした仕組みづくりについて議論できるとよい。	多様な担い手の需要を汲み取り、公民連携による事業の種を数多く創出していくことは、中期アクションプログラムの実効性を高める上で重要であると考えております。多様な主体から新しい提案や取組が生まれる仕組みづくりについては、今後推進委員会等で議論を深めていきたいと考えております。

本日は議論いただきたいこと

●目玉となる取組についてご意見をいただきたい

- ・ 不足する視点がないか
- ・ 官民連携で取り組む必要な施策 など